

ODの季節です

毎年、ゴールデンウィークを過ぎた頃から、小児科には起立性調節障害（OD）の子が増えてきます。ODで受診する子の中で一番多い訴えは、頭痛です。他にも、めまいや立ちくらみ、朝起きられないなど、様々な症状がみられます。

ODには、他の病気とは違う大きな特徴があります。それは、ほとんどのODの子は朝に症状が強く、昼から遅くとも夕方には症状が自然と軽くなる点です。典型的な子では、夜になると朝とは別人のように元気になります。そういった点から、ODは気持ちの問題とか、仮病とか、誤解を受けやすいのです。そしてこの誤解が、ODの子をさらに辛い状態に追い込んでいます。ODはれっきとした「体の病気」です。心が弱いからとか、やる気がないからとか、そういったことは全くありません。もちろん仮病でもありません。

ODの治療は、まずはこうした誤解を解くことから始めます。ODに対する世の中の理解は、昔と比べるとだいぶ進んできたように思います。しかし何といても、子どもにとって最も心強いのは、お母さんが自分をよく理解してくれていることです。たくさんの親子をみてきて、これは間違いなく言えます。

ODの改善には、長い時間がかかります。お母さんと二人三脚で、子どものペースに合わせてながら、子どもの回復力を信じ、治療に取り組んでもらいたいと思っています。